

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月24日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	焼却施設管理事業			コード	81115	
2 担当部課	部等	市民環境部	課等	環境課	作成者	小口智弘
3 事業概要	目的体系	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち			
		政策	循環型社会の構築	施策	廃棄物対策の推進	
		予算科目	焼却施設管理費	業務委託	一部委託	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市廃棄物処理及び清掃に関する条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	ダイオキシン類等の排出基準に適合した施設で、適正なごみの焼却処理を行う		
目的	対象者	市民	
	意図	快適で安全な生活環境の確保	

5 施設の管理運営状況	
指定管理者	25年度指定管理料 円
施設における通常業務	昭和61年度に建設されたごみ焼却施設であり、平成11年度～12年度にダイオキシン類削減対策として、排ガス高度処理施設及び灰固化施設を整備した。 現在20トン/炉・日×2炉＝40トン/日の可燃ごみを安全に焼却している。
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) 焼却施設等の定期的な点検整備と維持管理を実施し、広域施設建設に伴い解体となる10月末までの7ヶ月間、適正で安全な運転管理に努めた。 平成25年度は、7,165トンのごみを焼却した。（H23年度 10,987トン、H24年度 11,017トン） 平成25年度ダイオキシン類の排ガス濃度測定の結果は、基準値の5ナノグラムに対し、0.012～0.073ナノグラムであった。
前年度の課題への対応	解体までの7ヶ月間、適正で安全な稼働を確保するための最低限必要な点検整備と修繕を行い経費の削減を図った。

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
年間開設日数（日）				
1日の開設時間（時間）				
年間利用可能時間（時間）	0	0	0	0
年間利用実績（時間）				
② 年間利用者数（人）	0	0	0	0
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	229,591,093	204,606,121	88,881,945	0
経常経費	117,418,368	117,251,259	74,886,746	0
臨時的経費	112,172,725	87,354,862	13,995,199	0
* 臨時的経費の説明	焼却施設の修繕及び点検整備に係る経費			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	12,000,000	9,600,000	8,800,000	0
正規職員の人数(人)	1.50	1.20	1.10	0.00
③ 合計コスト(①+②)	241,591,093	214,206,121	97,681,945	0
前年度比		88.7%	45.6%	0.0%
財源	156,405,443	130,158,571	45,717,241	0
内訳	85,185,650	84,047,550	51,964,704	0
* 特定財源の説明	一般廃棄物処理手数料等			
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	#DIV/0!
⑦ 活動一単位あたりコスト	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
前年度比		#DIV/0!	#DIV/0!	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価	* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性	標準
評価項目		はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。		1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。			0
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。		1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		1	

9 有効性評価	* 有効性=施設の利用状況(項目6/住民の満足度)は向上しているか。	有効性	#DIV/0!
評価項目		はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。		1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。			0
④ 施設の利用者が増加した。	1日あたり利用者数、件数 前年度比	#DIV/0!	#DIV/0!
⑤ 施設使用料収入が増加した。	施設使用料年間収入額 前年度比	#DIV/0!	#DIV/0!

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善	
課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) 特になし
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 特になし
改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	25年度末で廃止	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	廃止	
13 大規模修繕の予定				
予定事業費	0	円	予定時期	なし
内容	特になし			